

通勤・通学における バス利用について

1. バスの利用頻度についての結果

図1には、通勤・通学にどの程度バスが利用されているのか、「ほぼ毎日」「週に3日程度」「週に1日程度」「月に1~2日程度」「それ以下」「その他」の6区分で示しました。

ほぼ毎日利用する方が全体の57%と半数以上を占めました。さらに、週1日以上利用する方の合計は、全体の8割という結果になりました。このことから、立正大学へ通勤・通学をする方の多くは、バスを利用していることがわかりました。

熊谷キャンパスの徒歩圏には鉄道駅がないため、最寄駅との間を移動する交通手段はほぼ乗合バスに限られます。そのため必然的に、通学・通勤には乗合バスを利用するという結果になったといえます。

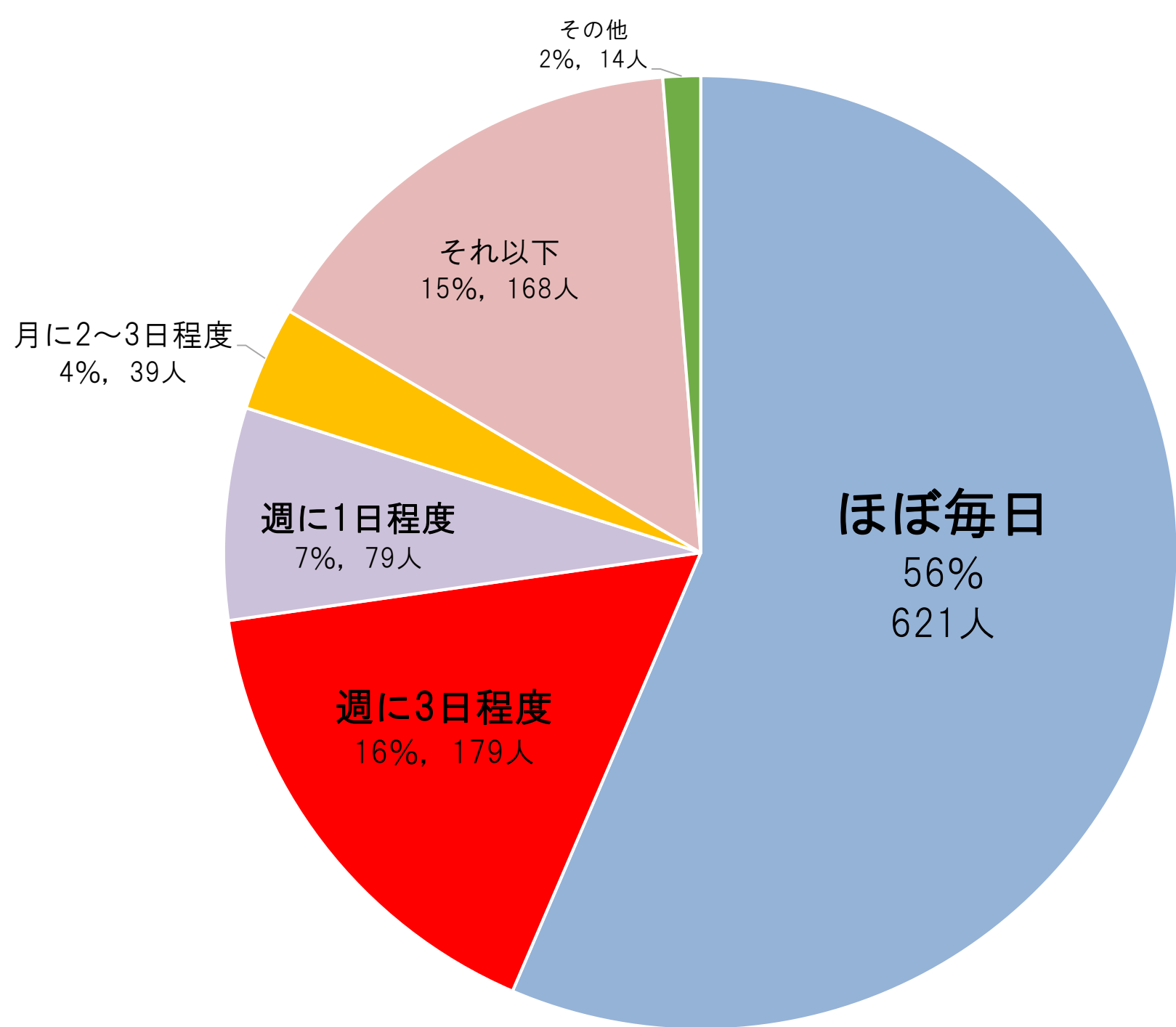


図1 通勤・通学におけるバスの利用頻度

2. 各項目別にわたった利用状況

次に各項目別において、利用状況をまとめました。

まずは各学科・職種別にみたバスの利用頻度です（図2）。週1日以上利用する方は概ね7～8割という結果になりました。図1の「週1日以上の利用者は全体の79.9%」という結果と比較しても、大きな差異はないということがわかりました。しかし、各学科が80%前後であるのに対して、大学院生や大学教員・職員は7割ないしはそれ以下という結果になりました。

次に年代別にみたバスの利用頻度です（図3）。週に1日以上利用した割合を比較すると若年層を中心に大きくなる傾向になりました。

理由として、学生の通学がバス利用頻度が高いことに対して、教職員の自家用車での通勤割合が大きいことが考えられます。

最後に、男女別にみたバスの利用頻度です（図4）。週に1日以上利用した割合を含め、男性に対して女性の方がバスを多く利用している傾向がわかりました。

女性の方が自家用車での通学に抵抗があるのかもしれませんが。

これらの結果から、それぞれ大きな差はみられませんでした。熊谷キャンパスに学生・教職員の駐車場があるため、自動車を所有している学生・教職員は自動車での移動を選択肢として考えるということが読み取れるでしょう。

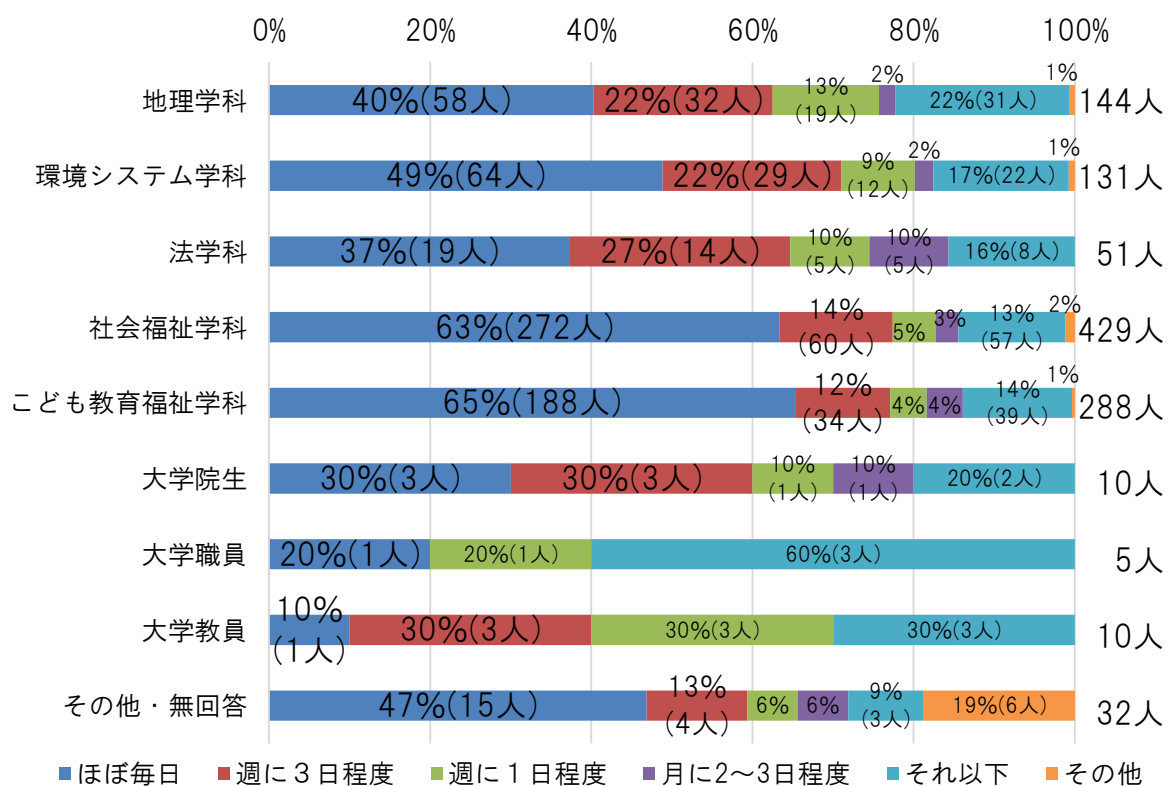


図2 各学科・職種別にみたバスの利用頻度

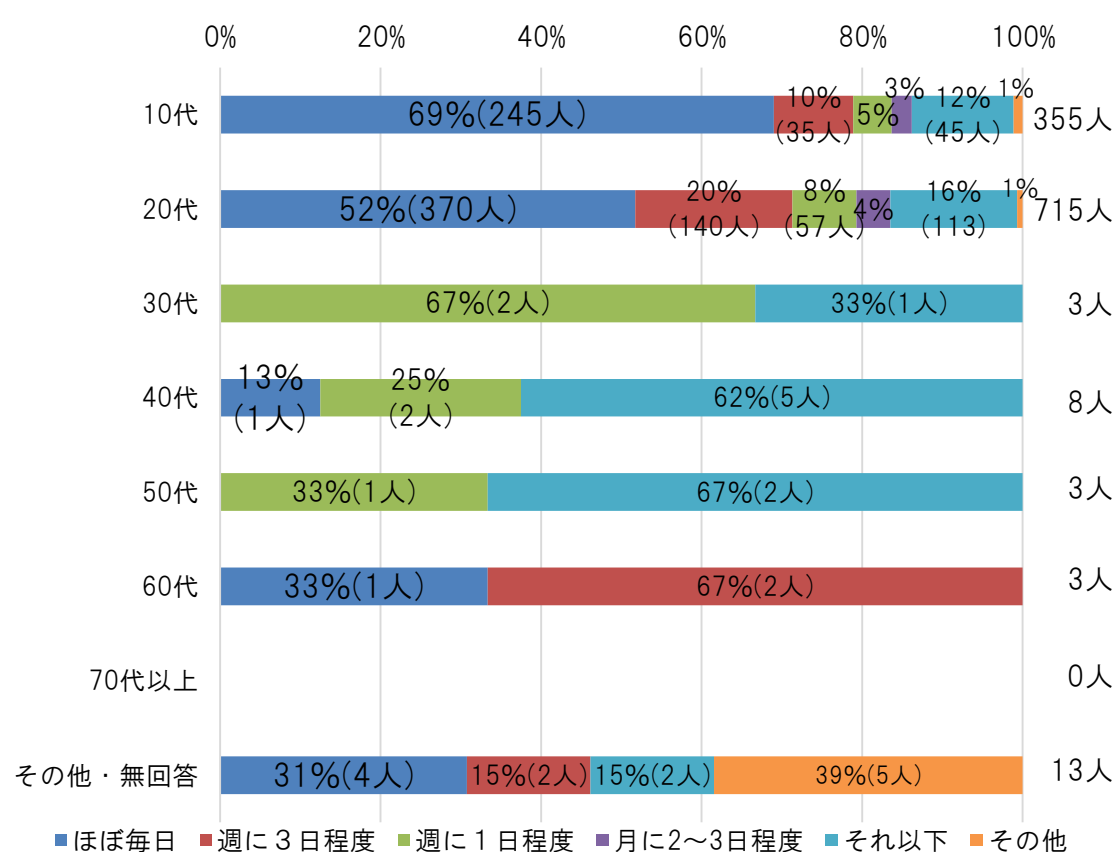


図3 年代別にみたバスの利用頻度

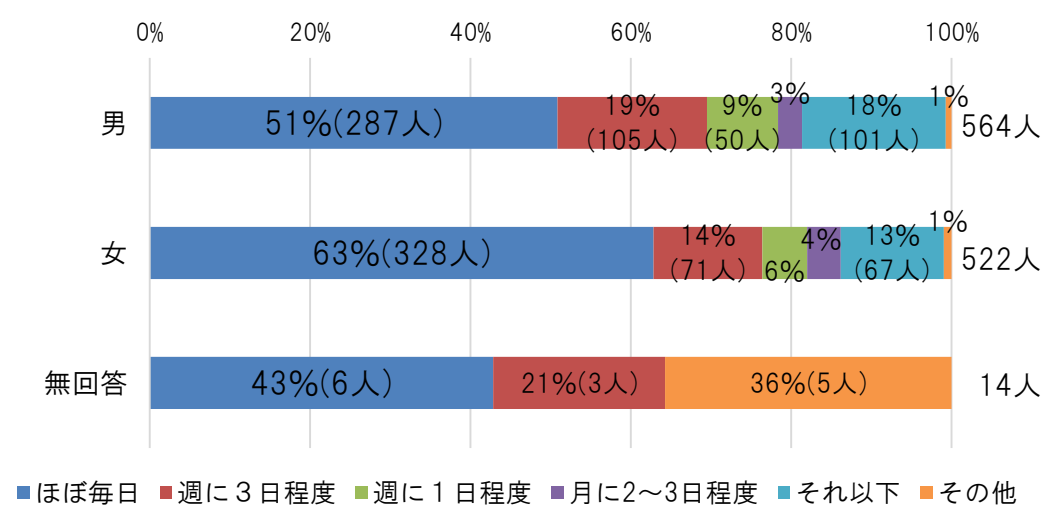


図4 男女別にみたバスの利用頻度